

度數	實數	割合%
無シ	一四、二六六	一〇〇.〇〇
一回	九、八六六	七三.七四
二回	二、三三三	一七.九四
三回	一、三三三	一〇.二五
四回	七、七	〇.〇六
五回	一、七	〇.〇一
六回以上	一、七	〇.〇一
一回以上	一、七	〇.〇一
十六回以上	一、七	〇.〇一

も八百三十四人中六回以上の轉勤者が百六十七人あることは交換手の職業の特質に基くもので、彼女等は交換局内に於いて諸處に轉勤し、なほその外一般民間に於ける私設交換臺を受持つものが多いことを知つてゐる人達にとつては決して無理からぬこと、首肯出来るであらう。女工に於いては總數四千六百九十一人中一千七百九十一人の轉勤者があり、しかも前述せる如く六回以上十五回に及ぶ轉勤者が三十一人からある。

業務別に觀た轉職度數

業務別	總數	無シ	一回	二回	三回	四回	五回	六回	七回	八回	九回	十回	十一回以上
女工	四、三三三	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七
事務員	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
店員	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
タイピスト	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
電話交換手	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
給仕	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
食堂給仕	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
案内係	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
掃除婦	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
雜役婦	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

第六節 就業時間

職業婦人の一日勤務時間ほどの位であらうか？ これは一般男性と同様に六時間超過十時間迄といふのが普通で一萬三千七百八十五人あり總數の八割七分に當つてゐる。このうち八時間超過十時間迄が最も多く九千六百六十八人で總數の過半である。更に十二時間を超えるものには、店員、接待係、案内係等主として商店或は活動寫眞館等に勤めてゐる者である。また勤務時間の短いものでは、五時間以下のものがエレベーターガールの百四人中十八人あり、事務員中には六十六人もあるが、蓋しこれ等は特殊の勤務による異例と見るべきであらう。

就業時間

時間	實數	割合%
六時間	一、〇〇〇	七.六九
七時間	一、〇〇〇	七.六九
八時間	一、〇〇〇	七.六九
九時間	一、〇〇〇	七.六九
十時間	一、〇〇〇	七.六九
十一時間	一、〇〇〇	七.六九
十二時間	一、〇〇〇	七.六九
十二時間超過	一、〇〇〇	七.六九
隔日勤務	一、〇〇〇	七.六九

又注意すべきは勤務時間を業務別に觀たる關係であつて、事務員、タイピスト及び交換手の如く智能的或ひは技術的業務に屬するものは、六時間乃至八時間勤務が最も多く、女工及び店員の如き、筋勞的業務に従ふものは九時間乃至十時間勤務が多いといふ事が示されてゐる。この他に隔日勤務の者もあるが、之は出札係五人、事務員二人の計七人に過ぎない。

尙婦人従業者保護法規として工場法の第三條、第四條及び第七條があつて、就業時間の制限、深夜業の禁止を規定してゐる。

〔註〕 工場法摘要

第三條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十二時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五年間ヲ限り前項ノ就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

第二章 勤務に關する事項

第二編 職業婦人の實相

第四條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

第七條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ

三十分十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クベシ

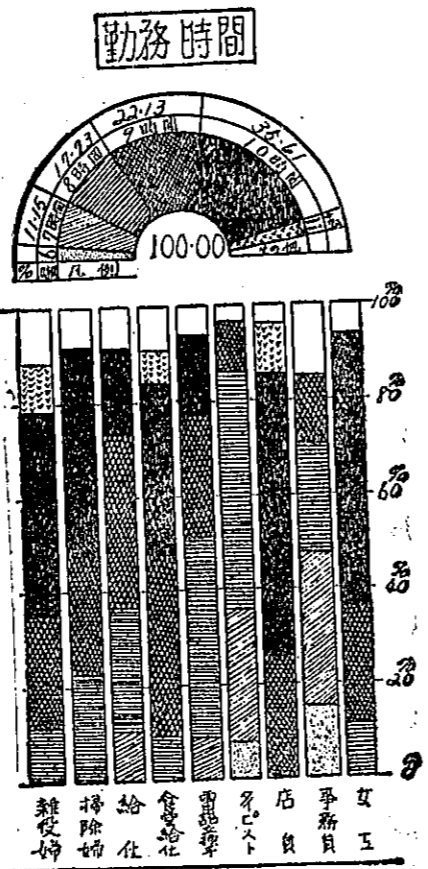
前項ノ休憩時間ハ一齊ニ與フヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

夏季ニ於テ一時間ヲ超ユル休憩時間ヲ設クル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ超ユル時間以内就業時間ヲ延長

スルコトヲ得但シ其ノ延長時間ハ一時間ヲ超ユルコトヲ得ス

業務別に觀たる就業時間

業務別	就業時間			
	六時間以下	八時間以下	十時間以下	十二時間以上
女工	5	60	44	6
事務員	63	210	84	7
店員	177	50	122	33
タイピスト	100	83	86	2
電話交換手	8	4	47	1
給仕	303	33	33	3
食堂給仕	1	1	1	1
案内係	1	8	1	1
掃除婦	36	1	1	1
雑役婦	12	2	3	1



第七節 公休日數

毎日勤めるもの身につて休日程楽しいものはない。まして女の然も若い人達にとつては、どんなに待たれるものかしれない。

公休日はこれを一箇月に何日といふものと、一箇年を通じて何日といふものと、不定といふものとに分れるが、殆んど全部は一箇月について何日といふものである。一箇年を單位とするものは僅か二十人、不定といふものは二十三人に過ぎない。

勤務時間は最も重要な労働条件の一つであつて、賃銀俸給と共に婦人職業問題の核心をなすものである。婦人工場労働者は工場法に依つて或る程度の保護を受けてゐるが、其の他の多数職業婦人は未だ舊態依然たるの有様である。

一箇月を單位とするものでは大體五日迄で、そのうち四日が最も多く五千二百四十五人あり三割四分に達せんとしてゐる。しかしこれは毎日曜日と書くべきものではないかと考へられる。以下二日(四千六百三十五人)五日(三千六百九十九人)、三日(二千六百四十八人)の順にその數を減じて行き、一日だけのものは僅かに二百四十二人、總數の一分五厘にしかならない。

平均年月 一箇月に付 一箇年を通して	公休日數						
	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日
總數	1,510	2,420	1,288	5,255	3,690	7	6
一箇年を通して	50	1	1	1	2	1	6

次に業務別にこれを観ると、女工及び店員は一箇月に二日の公休日が最も多い。女工に於いては四日といふのと相伯仲するのであるが、店員は二日が斷然多く二千三百五十八人中一千五十四人といふ多數を占めてゐる。毎日曜日と見るべき四日或ひは五日の公休日に事務員、タイピスト及び交換手に多く、給仕もまたこれと同じであるが、食堂給仕の方は二日、三日が最も多いといふのはその勤め先きの關係からである。

業務別に観たる公休日數

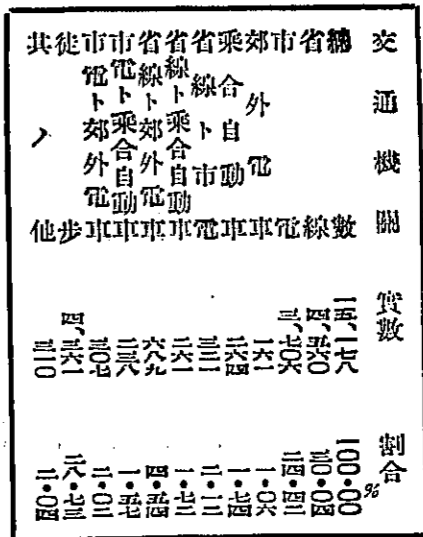
公休日數	女工		事務員		店員		タイピスト		電話交換手		給仕		食堂給仕		案内係		掃除婦		雜役婦	
	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二
總數	5,333	2,307	2,358	1,038	84	563	73	126	33	13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
一	13	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
二	2,320	2,304	2,355	1,037	83	562	72	125	32	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

月付キ	一箇年の通シテ						
	三日	四日	五日	六日	七日	一日	二日
三月	4	2	1	1	1	1	1
四月	1	1	1	1	1	1	1
五月	1	1	1	1	1	1	1
六月	1	1	1	1	1	1	1
七月	1	1	1	1	1	1	1
八月	1	1	1	1	1	1	1
九月	1	1	1	1	1	1	1
十月	1	1	1	1	1	1	1
十一月	1	1	1	1	1	1	1
十二月	1	1	1	1	1	1	1

第八節 通勤方法

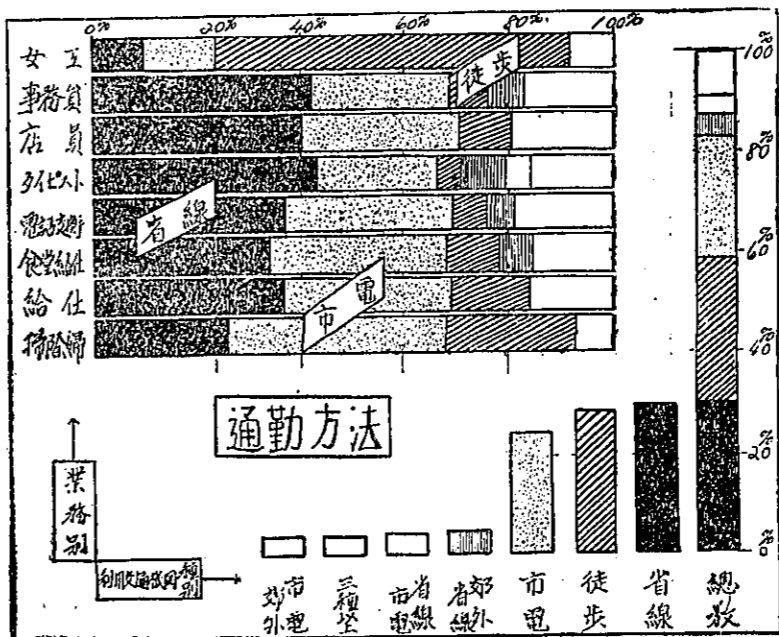
職業婦人の利用する交通機關中一番多いのは省線電車であつて四千五百六十人、即ち總數の約三割を占め、これに次ぐ

利用交通機關



ものは徒歩の四千三百六十一人（二割九分）市電の三千七百六人（二割四分）である。この三者を合して一萬二千六百二十七人の多きに達し總數の八割三分に當り、その他の交通機關及び二種以上の交通機關を利用するのは僅かに一割七分に過ぎない。次に利用交通機關一種類のものゝ、二種以上を使用するものゝを比較してみよう。まづ一種だけのものでは、右に述べた省線市電以外にも郊外電車や乗合自動車がある。なほそれ以外のものをも含めて、その總數は、九千一人に上る。二種以上の交通機關を利用するもの、例へば省線、市電、乗合自動車、郊外電車等を相互に連絡利用するものを加へると、二千三十七人となる。

これを比較してみると前者すなほ一種だけのものは五割九分に餘り、後者すなほ二種以上のものは一割三分に餘るといふ結果になる。尚ほ市電及徒歩人員の合計は八千六十七人にして總數の約半數を占めるわけだが、これを以て職業婦人の住居分布を想像して観ると、郊外居住と市内居住とは、大體に於いて、その數を同じくするといふことが出来よう。



職業務別に観るときは、女工總數四千七百三十九人中三千二百五十九人即ち約七割までが徒歩通勤者である。事務員の三千七百四人中一千五百六十人約四割二分と、タイピスト一千四十二人中四百五十八人約四割四分までが省線電車を利用する者であるといふことは、いろいろの意味に於いて面白い現象である。

省線電車と市電とを對比して見る時は、女工では市電利用者の方が百五十三人だけ多いのに對して、事務員、店員、タイピスト、電話交換手等は省線利用者の方が多く、食堂給仕はほぼ同數であつて、案内係、掃除婦等には市電利用者の方が多。三種以上の交通機關を利用するものは、事務員の四十七人を除いては他は極めて少數である。

業務別に觀たる利用交通機關

利用交通機關	女工	事務員	店員	タイピスト	電話交換手	給仕	食堂給仕	案内係	掃除婦	雜役婦
省線	五、三九二	三、七〇〇	二、三三三	一、〇八一	一、二六二	一、三〇二	一、六八六	一、二二二	一、三三三	一、〇五五
市電	六、六六六	九、三三三	六、六六六	三、三三三	二、六六六	一、九九九	二、三三三	一、五五五	一、九九九	三、三三三
郊外電車	三、三三三	三、三三三	三、三三三	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一
乗合自動車	三、三三三	三、三三三	三、三三三	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一
省線ト市電	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一
省線ト乗合自動車	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一
市電ト乗合自動車	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一
市電ト郊外電車	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一	一、一一一

第二章 勤務に關する事項

徒	一歩	三、二五	二九六	二四一	四	三	九	七	五	七
其ノ他(三種以上ヲ含ム)		三〇	九	四	三〇	三	一六	一	三	一〇

第九節 仕事の身心に及ぼす影響

仕事が精神上又は肉體上に及ぼす影響は充分に考慮すべき問題であつて、その職業や仕事の種類を異にすることによつて自ら違ふものである。

身心に及ぼす影響

たとへば本調査の結果から見ると、仕事の影響といふものは一般的には「大したことはない」といふことが出来る。調査總數一萬三千九百六十八人中「影響なし」又は「大したことはない」と記したものが一萬一千九百四十一人あり、全體の八割五分にも當る多數である。

次は單に「身體の疲勞」であるが、これは僅かに八百二十四人よりない。

この外に「冷える」といふのが百十人あるが、これは女性に有り勝の不健康状態を指すものであらう。

業務別に觀て目立つのは先づタイピストの「眼の疲勞」であつて、九百四十七人中百十一人を數へ一割二分に當つてゐる。これは大なり小なりに眼の疲勞はタイピストなる職業分野にあるに違ひないが、そのうちこれを特筆したものは數なのである。店員は立つてゐる時間が長い爲め、脚氣及び冷えが多く、身體の疲勞も一割以上である。

總數	三、九六
影無シ(大シタコトナシ)	一、九四
精神ノ疲勞	八
身體ノ疲勞	八
頭痛	三
脚氣	三
眼ノ疲勞	三
呼吸器ヲ害ス	三
内臓器ヲ害ス	三
冷エ	三
健康ヲ害ス	三
其ノ他	三

業務別に觀たる身心の影響

仕事カ身心ニ及ボス影響	女工	事務員	店員	タイピスト	電話交換手	給仕	食堂給仕	掃除婦	雜役婦
總數	四、五七	三、三七	二、一〇	六	六	五	六	一	一
影無シ	四、二四	二、七	一、六	六	六	五	六	一	一
精神ノ疲勞	一〇	四	四	八	三	二	三	一	一
身體ノ疲勞	一	一	三	三	七	三	七	一	一
頭痛	三	四	二	六	七	二	一	一	一
脚氣	九	一	六	一	二	一	一	一	一
眼ノ疲勞	四	一	六	一	二	一	一	一	一
呼吸器ヲ害ス	七	三	三	二	二	一	一	一	一
内臓器ヲ害ス	〇	三	四	八	二	一	一	一	一
冷エ	三	一	六	五	二	一	一	一	一
健康ヲ害ス	三	一	四	一	一	一	一	一	一
其ノ他	四	一〇	三	一	八	五	二	一	一

第十節 仕事に對する希望

職業婦人は仕事に對してどんな希望を持つてゐるか。この質問に對して得たる彼女らの聲は豫想外に少い。また希望なしと明記したるものと雖も何らかの希望が無いわけではなからう。

蒐集總數一萬六千二百二十六票中記入なし、不明、又は「希望なし」等を除き該當項目を記入せるものは僅かに三千四百三十二人であつた。今この記入項目について大別してみると次表の如くであつて、仕事に關するもの、周圍に關するもの、待遇に關するもの及びその他に分けることが出来る。

仕事に對する希望

モスニ待 ルニ關 ノ	モスニ關 ノ		モスニ待 ルニ關 ノ	
	他	其	他	其
勤務時間ノ増	勤務時間ノ増	勤務時間ノ増	勤務時間ノ増	勤務時間ノ増
給位ノ増	給位ノ増	給位ノ増	給位ノ増	給位ノ増
地位ノ増	地位ノ増	地位ノ増	地位ノ増	地位ノ増
待遇ノ増	待遇ノ増	待遇ノ増	待遇ノ増	待遇ノ増
設備ノ増	設備ノ増	設備ノ増	設備ノ増	設備ノ増
改修ノ増	改修ノ増	改修ノ増	改修ノ増	改修ノ増
安堵ノ増	安堵ノ増	安堵ノ増	安堵ノ増	安堵ノ増
進定ノ増	進定ノ増	進定ノ増	進定ノ増	進定ノ増
善善ノ増	善善ノ増	善善ノ増	善善ノ増	善善ノ増
計	計	計	計	計

の、待遇に關するもの及びその他に分けることが出来る。先づ仕事に關するものに就いては、「良い結果を」といふものが五百五人あり、次では「愉快に」(四百三十五人)「忠實に」(二百九十二人)等が多く、周圍に關するものでは「上役の理解」が百十二人「世人又はお客の理解」が六十五人あり、待遇については「地位の

昇進」(百六十六人)「待遇の改善」(九十五人)、次ぎは「給料の増加」と「勤務時間の厳守」(八十二人)とが同數である。この「給料の増加」と「地位の昇進」とは或ひは同じことを兩面より見たものではあるまいか。職業婦人一般の給料が概して低廉であり、又その生活が多く家庭中心であるといふ點から見て、これ等の希望は充分肯かれるであらう。其の他の中には「勤務先の發展」といふのが百二十八人もあり、次では「知識を得たい」(八十九人)、「自己將來の爲め」(八十七人)等である。

業務別に見るときは、店員の「客に好感を」(百一人)、「愉快に」(百十一人)が斷然多く、タイピストでは「良い結果を」(百七人)、交換手では「上役の理解」(五十六人)、女工では「良い結果を」(百七十四人)「技術の上達又は無過失」(百三十三人)等が最多數を占めてゐることは當然であらう。

業務別に觀たる仕事に對する希望

希望ノ種別	業務別									
	女工	事務員	店員	タイピスト	電話交換手	給仕	食堂給仕	案内係	掃除婦	雜役婦
好キナ仕事	18	24	18	15	12	10	8	6	5	4
定ツタ仕事	2	3	2	1	1	1	1	1	1	1
難シイ又は多量ナ仕事	6	10	8	5	4	3	2	2	2	2
良好ナ機械	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
技術ノ上達又は無過失	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
仕事ヲ合理的ニ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
良い結果ヲ	17	23	17	14	11	9	7	5	4	3
客ニ好意ヲ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
愉快ニ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
忠實ニ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
總數	37	47	37	30	23	19	14	10	8	6

		〆モルス關=期待											〆モルス關=仕事															
		勤務時間ノ厳守	給料ノ増加	地位ノ昇進	地位ノ安定	待遇ノ改善	設備ノ改善	世人又ハ内容ノ理解																				
共 ノ 他 希	勤務先ノ發展	三	二	三	三	三	三	三	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三			
	社會ノタメ	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三		
	知識ヲ得タイ	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
	人格ヲ認メラレタイ	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
	責任ヲ與ヘラレタイ	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
	自己ノ將來ノタメ	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
	家計ノ補助	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
	望	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
	ナ	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
	シ	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

第十一節 仕事に關する感想

一番楽しく思ふこと——職業婦人はその仕事に對して、いかなる楽しみを持つてゐるか？ 自分の仕事と定められた

上は誰れも愉快に働きたいと思ふのは人情である。

蒐集した調査票中、無記入、不明及び感想なしを除いたものは總數に對して三割にも當らぬ僅かに五千七百二十一票であつた。この中について彼女等のその職場にあつて何を樂しみに毎日暮してゐるかを見るならば、これも仕事に關するもの、周囲に關するもの、待遇に關するもの及びその他に分つことが出来る。

一番楽しく思ふこと

〆モルス關=期待		〆モルス關=仕事																							
勤務時間ノ厳守	給料ノ増加	地位ノ昇進	地位ノ安定	待遇ノ改善	設備ノ改善	世人又ハ内容ノ理解																			
三	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

して間違ひなく完成（六百五十八人）、能率の上るとき（五百二十一）、難しき又は多量の仕事の完成（五百三人）、その次は多忙のとき（四百五十一）、感謝又は賞められた時（三百五十三）、であつて、この仕事に關する項目に屬するものは、四千四百七十七人の多きに達し、回答總數の七割八分以上に當つてゐる。

周囲又は待遇に關するものでは、休日又は在宅といふものが三百人あつて最多數を占めてゐるが、これは誰しもの望むところであつて、安息日の多い事は最も樂しい事であらう。次には同僚間仲良き事（百九十九）、世人又は客の理解ある事（百二十人）等が多い方である。その他では、身體の健康を望むものが百四十九人あり、給料日を待ち焦れるものが百

第二章 勤務に關する事項

十五人、勤務先の發展を希ふものが百人ある。
 次に「楽しみ更になし」といふものが九十七人ある。これは全體から見るとは極く小數ではあるが、その仕事について「さらに楽しみがない」といふのは淋しい極みではあるまいか。かゝる一種の虚無的な思想に陥るのは、陰惨な生活環境の中に若さと美しさを犠牲にして無味乾燥な労働を強ひられるからではあるまいか。その全部が女工であるといふ事も尙一入考へさせられるところであらう。

業務別に観たる仕事に對する感想

—その一番樂しく思ふこと—

感想種別	女工		事務員		店員		タイピスト		電話交換手		給仕		食堂給仕		案内係		掃除婦		雜役婦	
	總數	数	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數
好キナ仕事	一四三	一五三	九	七	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
能率ノ上ルトキ	三三	三三	六	六	一七	一七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
機械良好	四	一	一	一	二六	二六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
難シイ又ハ多量ノ仕事ノ完成	二五	二二	一	一	二二	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
豫定通りノ完成	一七〇	一四七	八〇	七〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
間違ヒナク完成	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
多クシテ忙シキトキ	七	二四	一	一	八	八	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
暇又ハ休息ノトキ	六	三	三	三	六	六	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
技術上達	二〇	一九	一	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又		又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又		又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又		又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又		又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又		又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又		又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又		又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又		又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又		
	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又	又ハハモ ノモス ニハ環 ノ境又
感謝又ハ讚メラレタトキ	六	一五	一七	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
上役ノ理解アルコト	六	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
同僚間仲ノ良キコト	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
世人又ハ容ノ理解アルコト	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
施設良キコト	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
自己カ認メラレタトキ	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
昇給又ハ昇進	一五	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
休日又ハ在宅	一〇	六	七	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
勤務先ノ發展	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
社會ノ爲ニナルトキ	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
新知識ヲ得ルコト	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
獨立自活シ得ルコト	二	五	七	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
身體ノ健康	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
家ニ心配ナキコト	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
給料ノ目	六	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
歸宅ノトキ	一〇	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
樂シミ更ニナシ	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

二 一番嫌に思ふこと——仕事を持つ身にとつて一番嫌に思ふことは何であるか。回答總數四千九百十二票を得たが、こ

れも大體にみて仕事、周囲又は環境及び待遇に關するものと其の他に分つことが出来る。仕事に關するものでは、一番樂しく思ふ項で最も多數を占めたもの、反面の「豫定通り抄らぬ事」(七百三十六人)を筆頭に、「出來上り不良」(六百四十五人)「仕事がないこと」(五百四十八人)「機械の故障」(二百八十九人)「叱られた時」(二百五十二人)等が之れに

一番嫌に思ふこと

感 想 種 別					感 想 種 別				
仕事に關する事					世に又ハ御客ノ無理解				
總	仕事	豫定通り抄	機械の故障	能率の上ラヌ	單調ナ仕事	設定ノ悪イコト	設備ノ悪イコト	自己ノ認めラヌコト	自由ハ休養時間無キ事
四、九三	一、三三	六、九	九、九	二、八一	三、三三	二、七	二、五	二、七	三、三
周圍又は環境ノ事					其ノ他				
周圍ノ不公平	上役ノ無理解	男女ノ不平等	同僚間ノ不和	同僚間ノ不和	病氣又ハ身體ノ故障	過勞	自活ノ不安	休息ノ不足	給料ノ低廉
三、三	四、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三

仕事の成績の思はしくないと仕事
の無いことは、自分の生活を不安に導くもので實際嫌であらう。周囲又は環境に關するものでは、「世人又はお客の無理解」(五百五十一人)「上役の無理解」(四百二十二)が多く、次いで「同僚間の不和」(二百五十六人)であるが「男性の無理解」(五十八人)「男女不公平」(三十八人)等のあることは男性

の考ふべきところである。待遇に關するものについては「勤務時間の延長」(六百六十九人)が絶對多數を占めてゐる。終業時間の不定なることは女性の最も忌むべきもの、一つだからである。其の他では「病氣又は身體の故障」(二百五十八人)が特に目立つてゐる。

次に業務別に觀るときは、女工では「出來上り不良」(百七十三人)、事務員では「豫定通り抄らぬこと」(三百七十人)、店員では「世人又はお客の無理解」(二百九十九人)、タイピストでは、「機械の故障」(八十七人)、電話交換手では「上役の無理解」(百三十二人)が最も多い事は首肯出来るところである。

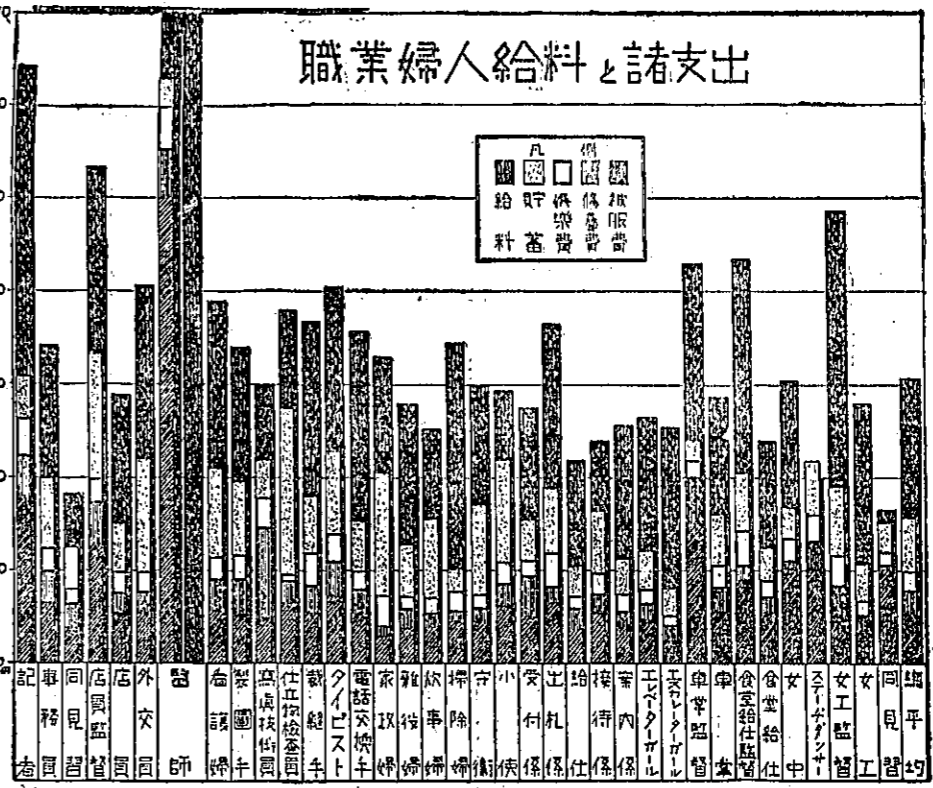
尙接客をその任務とする店員、給仕、案内係、エレベーターガール等は、何といつても「世人又はお客の無理解」が一番多いのは當然である。

一番嫌に思ふこと

感 想 種 別		女工	事務員	店員	タイピスト	電話交換手	給仕	食堂給仕	案内係	掃除婦	雑役婦
總	仕事に關する事	四、九三	一、三三	八、八一	二、八一	三、三三	一、三三	三、三三	二、八一	三、三三	三、三三
單調ナ仕事	設定ノ悪イコト	三、三	二、七	二、五	二、七	三、三	二、七	二、五	二、七	三、三	三、三
能率ノ上ラヌコト	設備ノ悪イコト	二、七	二、五	二、七	二、七	三、三	二、七	二、五	二、七	三、三	三、三
機械ノ故障	自己ノ認めラヌコト	九、九	六、九	九、九	六、九	九、九	六、九	九、九	六、九	九、九	六、九
豫定通り抄ラヌコト	自由ハ休養時間無キ事	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三
仕事多クテ急ガレルコト	自活ノ不安	二、一	二、一	二、一	二、一	二、一	二、一	二、一	二、一	二、一	二、一
出來上り不良	休息ノ不足	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七
仕事ガ無イコト	給料ノ低廉	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
叱ラレタトキ		六、二	六、二	六、二	六、二	六、二	六、二	六、二	六、二	六、二	六、二
上役ノ無理解		四、三	四、三	四、三	四、三	四、三	四、三	四、三	四、三	四、三	四、三
男女ノ不平等		一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
同僚間ノ不和		三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三

第二章 勤務に關する事項

職業婦人給料と諸支出



ある。少い方では、女工見習の十六圓五十錢、事務員見習の十八圓三十一錢、ステイヂダンサーの十九圓九十一錢、給仕の二十一圓九十五錢等である。

之に依つて見るに一般に高給を取つてゐるのは職業の性質上比較的頭腦乃至は高級技術を要する事務員、店員監督、醫師、タイピスト、電話交換手等に比較的多く、殊に數に於いては少いがタイピストの中には頭腦と技術を最も要するステノグラファーを兼ね百圓以上を取つてゐる者が數名ある。就中、さる銀行に勤務せる亞米利加婦人の如きは四百五十圓も取り、時のナンバーワン? として得意のものもある。又數年間亞米利加に於いて研究し目下貿易會社に勤務せる日本婦人で二百圓以上も取つてゐるものがある。

又記者の中にも婦人雜誌に得意の腕を振り二百三十圓も取つてゐるものもある。

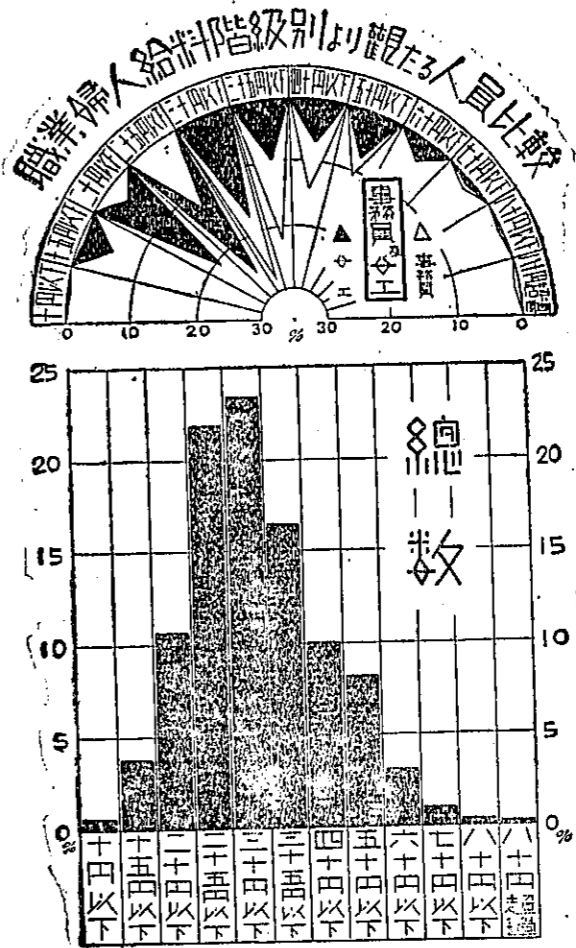
ダンサー等にも多い。然し食堂給仕、ダンサー等には給料以外に他の職業に比し多額な収入があるので、給料額のみで直ちに其の高低を云々するわけにはいかない。

以上に依つて見るに職業婦人の給料の標準は三十圓前後にあることを示して居るが、果して右の標準が彼女等の勞力に對する正當な報酬であるかどうか。單に女子なるが故に低給で使用せられてはゐないであらうか。又右の給料を以て克く合理的な生活を支へ得るか否か等は、人形の家から飛出して街頭に進出した彼女等の爲めに、大いに考慮を拂ふべき點であらう。

職業婦人の給料 (職業及所得階級別)

種別	總數	階級										平均		
		十圓以下	十圓以下	二十圓以下	廿五圓以下	三十圓以下	卅五圓以下	四十圓以下	五十圓以下	卅圓以下	卅圓以下			
總務員	1,500	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
店員	1,300	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
タイピスト	1,000	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
電話交換手	800	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
雑役婦	700	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
掃除婦	600	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
給仕	500	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
案内係	400	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
エンターテイナー	300	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
食堂給仕	200	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
女工	1,200	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

割合	100.00	0.73	2.91	10.81	3.10	3.37	2.67	10.15	8.33	3.33	1.14	0.57	0.57	1
其他	100.00	0.73	2.91	10.81	3.10	3.37	2.67	10.15	8.33	3.33	1.14	0.57	0.57	1



而も職業婦人中には男子も尙及ばない卓越した技能を有するものあり、加ふるに婦人の性能に適したる事務の益々増加する傾向あるに鑑み今や雇主側に於いても従來の「安きが故に」といふ觀念を一掃すべき時期に達着してゐるのであるまいか。況んや事務能率の増進が使用人優遇と密接不離の關係にあることが、科學的管理の理論に依つて證明せられたる今日に於いてをやである。

第二節 手当

こゝに手当といふのは精勤手当、残業手当或ひは之に類する手当を示すのであるが、比較的缺勤多く又残業の餘り出來ない職業婦人には此の種の手当を受けてゐる者は少く、又戦時黄金時代に於ける所謂戦時手当も今は昔物語となり、結局

過半は受けてゐない。即ち全然手当のない者は七千七百八十八人で、受けてゐる者は六千五百六十八人である。

そして受けてゐる者でも月平均三圓前後が殆んど其の大部分である。此等は主として女工、事務員、店員、電話交換手、タイピスト等である。即ち一圓超過三圓以下が二千六百三十四人(四〇・一〇%)、三圓超過五圓以下が千三百三十七人(二〇・三六%)、一圓以下が一千二百九人(一八・四一%)、で以上で克く七八・八七%(五千百八十八人)を占めてゐる。二十圓を超過する者では事務員、食堂給仕、タイピスト、車掌等に比較的多く見受けられるが總計で僅かに八十八人(一・三三%)と云ふ慘めである。

業務別に觀たる手当

種別	總數	階級										無シ
		以下一圓	以下三圓	以下五圓	以下七圓	以下拾圓	以下拾五圓	以下二十圓	二十圓超過	無シ		
總數	6,568	1,902	2,260	1,177	1,362	352	1,216	352	266	216	6	7,618
事務員	1,124	333	400	200	200	100	100	100	100	100	0	1,600
店員	1,201	174	200	100	100	100	100	100	100	100	0	1,600
タイピスト	1,124	174	200	100	100	100	100	100	100	100	0	1,600
電話交換手	1,124	174	200	100	100	100	100	100	100	100	0	1,600
給仕	1,124	174	200	100	100	100	100	100	100	100	0	1,600
食堂給仕	1,124	174	200	100	100	100	100	100	100	100	0	1,600
女工	2,110	1,051	1,100	500	500	100	100	100	100	100	0	2,600
其他	1,124	174	200	100	100	100	100	100	100	100	0	1,600
割合	100.00	28.96	34.42	18.10	20.74	5.33	19.83	5.33	3.67	3.33	0.09	11.57

第三節 賞 與

凡てのサラリーマンが一定の俸給以外に副収入として、或ひは俸給の一部として考へ、そしてそれを各人の日常生活と密接不離の關係に置いた賞與も、此の世界的不景氣の洗禮を受けては、僅かに戰時黃金時代を回顧して、自ら慰むるの哀れさを止めてゐるに過ぎない。殊に勤続年限の比較的短い彼女等には賞與の率が著しく低下を示してゐるばかりでなく、本調査の結果に據ると全然賞與を支給されない者が一萬四千八百八人中四千四十三人(二七・三〇%)の多數に上つてゐる。而して之は比較的大會社に於ける事實であるから、其の他の群小會社工場は推して知るべきであらう。

賞與の支給を受けてゐるものも内容は極めて貧弱であつて一箇月平均一圓以下が一千四百八十九人(一三・八三%)、一圓超過三圓以下が二千六百二十一(二四・三五%)、之れに次ぐものは三圓超過五圓以下が二千九十九人(一八・六六%)である。之等は主として女工、給仕、店員等に屬する。高い方では十五圓超過二十圓以下の三百三十九人(三・一五%)、二十圓超過の二百十四人(一・九九%)で頗る少く、そして此等は主として事務員、タイピスト、電話交換手等に依つて占められてゐる。

而して大體に於いて筋肉労働を主とする女工、車掌、雜役婦、店員等には毎期俸給の五割以下の者が多く、十割を超ゆる者は曉天の星程である。然し頭腦労働乃至は高級技術を主とする事務員、タイピスト、電話交換手、店員監督等には二十割以上も取るものも尠くない。

業務別に觀たる賞與

種別	階級							無シ
	一圓以下	三圓以下	五圓以下	七圓以下	十圓以下	十五圓以下	二十圓以下	
總數	10,350	1,800	2,300	1,000	1,200	1,000	300	2,050
事務員	1,200	100	100	100	100	100	100	100
店員	1,800	100	100	100	100	100	100	100
タイピスト	800	100	100	100	100	100	100	100
電話交換手	500	100	100	100	100	100	100	100
食堂給仕	400	100	100	100	100	100	100	100
女工	2,300	1,200	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
其他	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
割合	100.00	17.40	22.23	9.66	11.59	9.66	2.90	19.96

第四節 扶 助

職業婦人が自己の収入を以つて經濟的獨立を爲し得るか否かは、常に興味を中心點であるばかりでなく、彼女等の將來に於ける進出と没落とを決定する契機である。而して本調査の結果に據ると扶助を受けてゐる者は頗る少く、一萬四千二百六十三人中僅かに一千二人で八分にも足りない。然もその扶助額は三圓前後が一番多い。即ち一圓以下が七十四人(七・三八%)、一圓超過三圓以下が二百三十九人(二・三三・八三%)、三圓超過五圓以下が二百六十六人(二・一・五四%)で、以上で克く被扶助者中の五二・七五%(五百二十九人)を占めてゐる。然して之は事務員、店員、女工等に依つて占められて

ゐる。尙、二十圓超過は僅かに六十四人(六・四八%)を數へるのみで、主として事務員、タイピスト、女工、店員等に依つて占められてゐる。

右の數字は一見職業婦人の經濟的地位が極めて安定してゐるかのやうに思はしめるが、事實は之に反して、彼女等の多くが自宅通ひで、食費、住宅費等を生計費外に置いてゐるからである。尤も自宅よりの通勤者は、食費、住宅費の全部又は一部を家計補助として繰入れるものが甚だ多く、全體の約八割が月々一圓、二圓の小額から六十圓、七十圓も出してゐる。尙ほ事務員中には扶助を受けてゐるもの、しかも多額を受けてゐる者が多々あるが、之れは事務の餘暇學校へ通へる者乃至は夫の不具癱疾或ひは歿後に於いて、數人の子供を纖弱き腕に抱へつゝ、雄々しくも生活戦線に活動してゐる者多き結果である。そして女工に於いても後者の理由に於いて同様なる現象を示してゐる者が多い。重い負擔に喘いでゐる弱き者の窮狀があり／＼と眼に浮び、一掬同情の泪を禁じ得ないものがある。

業務別に觀たる家庭よりの扶助關係

種別	階級						
	總數	一圓以下	三圓以下	五圓以下	七圓以下	十圓以下	十五圓以下
事務員	100	5	15	25	35	40	40
店員	100	10	20	30	40	50	50
タイピスト	100	5	15	25	35	40	40
電話交換手	100	5	15	25	35	40	40
給仕	100	5	15	25	35	40	40

種別	階級						
	總數	一圓以下	三圓以下	五圓以下	七圓以下	十圓以下	十五圓以下
食堂給仕	100	5	15	25	35	40	40
女工	100	5	15	25	35	40	40
その他	100	5	15	25	35	40	40
割合(%)	100.00	7.6	33.3	33.3	35.7	41.5	47.7

第五節 其の他の收入

こゝに其の他の收入とは上述の給料、手當、賞與、扶助に屬しない一切の收入(内職に依る收入、年金、財産收入等)を假に名づけたのである。女性が戸主の場合乃至は一家經濟を背負へる場合等の如き責任ある地位に置かれることが比較的少き關係上、年金、財産收入等は頗る少い。又一日の業務を果して尙且内職をなすだけの餘力を持合はす女性少き關係上内職に依る收入も少い。即ち一萬四千七百七十一人中四分の五百六十九人で、然も其の中三圓前後が最も多い。即ち一圓超過三圓以下が百八十二人(三一・九八%)、三圓超過五圓以下が百十三人(一九・八六%)、一圓以下が七十九人(一三・八八%)で以上に依つて六五・七二%(三百七十四人)を占めてゐる。二十圓超過は僅かに六十五人(一一・四三%)で主として食堂給仕(二十六人)、女工(十人)、事務員(八人)或ひは店員(六人)等に依つて占められてゐる。

此の種の收入が尙ほ事務員(百八人)及び女工(百七十六人)等に多いのは家庭經濟上責任ある者多き關係である。又華やかな生活戦線に活躍する食堂給仕はチップ多き關係で中には一人で克く數百圓の收入を擧げてゐる者もある。

業務別に観たるその他の収入

種別	階級									
	總數	一圓以下	三圓以下	五圓以下	七圓以下	十圓以下	十五圓以下	二十圓以下	三十圓以下	三十圓超過
事務員	1,291	9	123	233	33	3	3	5	8	2,666
店員	1,291	6	3	3	1	1	2	1	6	2,333
給仕	1,291	5	2	3	1	1	1	1	1	2,333
食堂給仕	1,291	2	2	4	7	4	1	1	6	700
女工	1,291	1	2	3	3	4	4	8	6	4,401
其ノ他	1,291	2	2	3	6	3	3	3	15	2,800
割合(%)	100.00	3.82	3.82	19.66	3.87	9.24	5.45	4.65	11.63	1

第六節 収入總額

前述の如く給料以外の副収入とも言ふべき手當、賞與、扶助、其の他の収入は甚だしく少き關係上給料と同じく三十圓前後が數に於いては一番多く、一萬四千九百二十三人中、三十五圓以下の者が過半數の七千九百二十二人で五三・〇九%を占めてゐる。うち二十五圓超過三十圓以下が二千四百九十三人(一六・七〇%)、三十圓超過三十五圓以下が二千二百二十九人(一四・九四%)を占めてゐる。

又百圓超過の者は百三十四人(〇・九〇%)であるが、事務員(七十六人)、タイピスト(二十二二人)、食堂給仕(九人)、

電話交換手(七人)等で此の大部分を占めてゐる。

概して智能的の事務を持つ事務員、タイピスト、店員監督、醫師或ひは腕次第で反射的に報いられる外交員乃至は副収入多き食堂給仕に収入の多額な者が多い。之に反して肉體勞働を主とする女工、案内係、給仕及び店員等には僅少な者が多い。

要之、以上の事實と、前述の初任給の二十五圓以下(總體の六四・二八%)、現給料の三十五圓以下(總體の六二・〇七%)及び勤続年限の五箇年以下(總體の七七・五〇%)が何れも調査人員の過半を占むる諸現象を併せ考ふるとき、職業婦人の初任給引上及び家庭生活の簡易化並びに既婚婦人の採用範圍擴張等の實現を計るにあらざれば、彼女等の目ざす經濟的獨立に對し拂ふ眞摯の努力は言はず實を結ばぬ空華となり、單に嫁入仕度乃至は家計補助の爲めの就職の程度に止ることを知るのである。

職業婦人の収入總額 (業務別總収入階級別)

業務別種別	階級												
	總數	二十圓以下	廿五圓以下	三十圓以下	卅五圓以下	四十圓以下	卅五圓以下	五十圓以下	六十圓以下	七十圓以下	八十圓以下	百圓以下	百圓超過
事務員	1,291	1,131	1,187	1,233	1,289	1,345	1,401	1,457	1,513	1,569	1,625	1,681	1,737
店員	1,291	11	120	100	77	53	33	17	6	1	10	10	6
タイピスト	1,291	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
電話交換手	1,291	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
雜役婦	1,291	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
掃除婦	1,291	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

給仕	二五	一五	二七	三〇	八	二	一	一
案内係	一〇	二〇	一〇	二〇	九	一	一	一
車掌	五	一	四	五	八	三	一	一
食堂給仕	五	一	七	二	三	二	一	一
女工	五〇	九	一〇	三	八	一〇	二	四
共ノ他	五	三	六	七	六	三	三	四
割合(%)	100.00	8.75	3.57	16.70	14.29	11.43	9.52	4.01

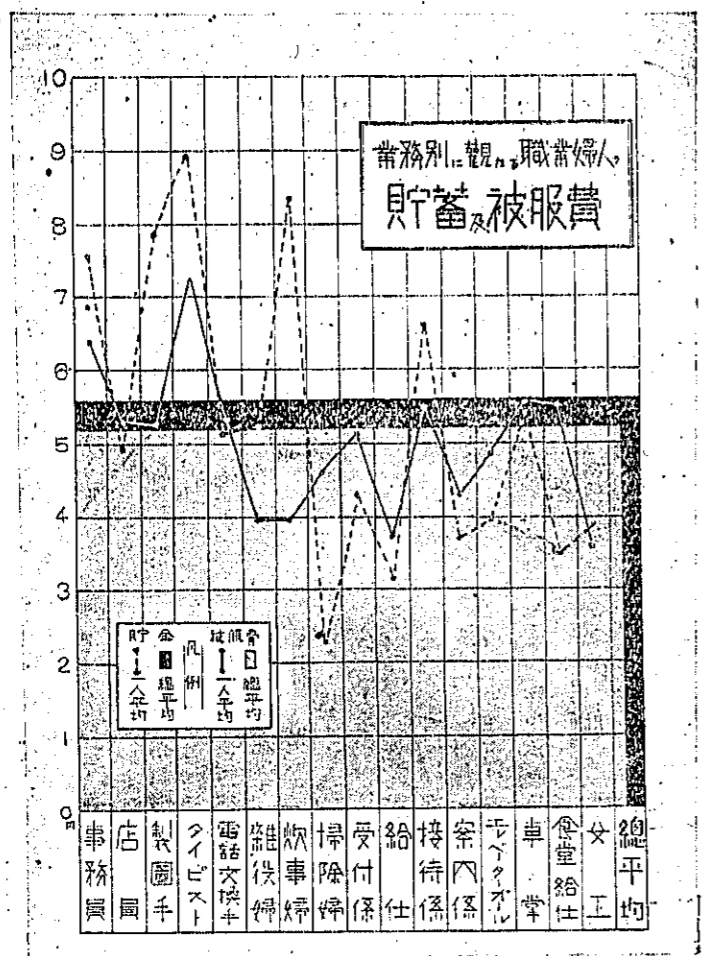
第七節 被服費

一般女性の支出費用中其の主要なるもの、一つは被服費であらう。殊に今回の調査対象の大部分が、花ならば盛り、二十歳前後の職業婦人が多い關係上、調査開始前より彼女等によつて最も多く支出されるものは食費、住宅費、補助費等を除けば被服費であらうと豫期した。然るに此の豫期は見事に裏切られて貯蓄の方が多いと云ふ結果を示し、所謂三十一年式職業婦人に對する一般通念を覆すものがあつた。此の邊り日本婦人らしい百二十%の特異性が認められると共に、職業婦人の前途に光明を感じしむるものがある。即ち被服費は平均給料三十圓七十五錢に對して、平均一六・九一% (平均五圓二十錢) であるが、貯蓄は平均一八・二二% (平均五圓六十錢) である。そして被服費は五圓以下が一番多い。即ち總數一萬二千二百二十六人中八千五百四十九人で七〇・五〇%を占めてゐる。之れは女工、事務員及び店員等に多くを見る。然し十圓を超す者が六百六十七人(五・五〇%)もあり、其の中毎月二十圓を超す者が六十二人(〇・五二%)もある。之れは事務員、店員、タイピスト及び食堂給仕等に比較的多くを見るのである。

更に一人平均被服費を見るに、醫師の五十圓、記者の十七圓五十錢、店員監督の十二圓八十三錢、車掌監督の十五圓、

女中の十四圓四十八錢、ステイヂダンサーの十圓十一錢、女工見習の十圓等は平均額の五圓二十錢を遙かに超えてゐる。平均額を下るものではエスカレーターガールの二圓五十錢、家政婦の三圓、女工の三圓六十一錢、事務員見習及び給仕の三圓七十四錢、炊事婦の三圓九十六錢等が主なものである。

被服費は概して事務員、店員、タイピスト、電話交換手、接待係、食堂給仕等の如き華やかな生活戦線に立つ者の中に比較的多く、収入の比較的少い家政婦、掃除婦、炊事婦、女工、給仕等には餘り多く投じて居ない。暗い生活苦の一面を示すものがある。



次に給料に對し支出せる被服費の割合を見るに、一途に美服を着たがる十五六歳時代の女工見習の六〇・六一%を筆頭に、之に次ぐものは風貌を生命とするステイヂダンサーで其の過半の五〇・七八%を支出してゐる。次に醫師の三五・七一%、車掌監督の三四・八八%、女中の三四・四四%、記者の二七・二四%、店員監督の二四・〇六%で、平均の一六・九一%、を遙かに超えてゐる。少い方では女工監督の八・六二%、家政婦の九・〇九%、エスカレーターガールの九・七七%、女工の二三・三〇%、掃除婦の二三・四二%等で一般に一家支持の階級乃至

は家計補助の爲め就業せる階級には餘り多く支出せられてゐない。此處にも纖弱い女性の苦闘がありくと認められる。

職業婦人の被服費（業務別被服費階級別）

業務別	階級	一人平均額賃数		全上割合
		給料	被服費	
業務別	總數	100.00	100.00	100.00%
	以下	100.00	100.00	100.00%
	以下	100.00	100.00	100.00%
	以下	100.00	100.00	100.00%
	以下	100.00	100.00	100.00%
	以下	100.00	100.00	100.00%
	以下	100.00	100.00	100.00%
	以下	100.00	100.00	100.00%
	以下	100.00	100.00	100.00%
	以下	100.00	100.00	100.00%
	以下	100.00	100.00	100.00%
事務員	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	100.00	100.00	100.00%
店員	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	100.00	100.00	100.00%
タイピスト	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	100.00	100.00	100.00%
電話交換手	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	100.00	100.00	100.00%
雑役婦	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	100.00	100.00	100.00%
掃除婦	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	100.00	100.00	100.00%
給仕	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	100.00	100.00	100.00%
食堂給仕	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	100.00	100.00	100.00%
女工	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	100.00	100.00	100.00%
共ノ他	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	100.00	100.00	100.00%
割合(%)		100.00	100.00	100.00%

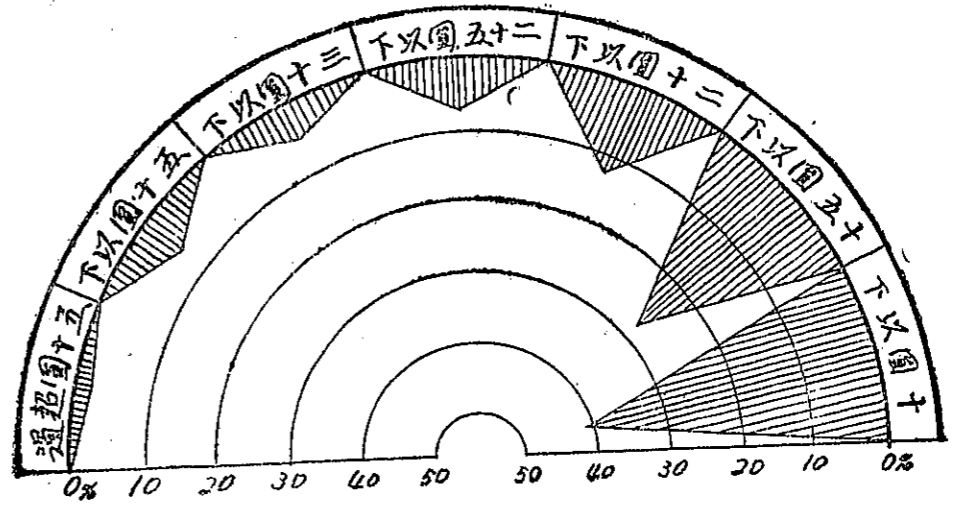
第八節 食費及び住居費

激烈な職業戦線に活躍する爲めに支出さるゝ彼女等の食費及び住居費は果して充分なるものであるであらうか。總數五千七百七十人中十圓以下の者が實に二千八十九人(四〇・四〇%)の多きを占め、十圓超過十五圓以下の者が一千四百十四人(二七・三五%)、十五圓超過二十圓以下が六百三十二人(一一・二三%)等之に次ぎ、以上を合すると七九・九八%を占むることになる。そしてそれは女工、事務員、店員、タイピスト等にその多くを見るのである。

以上は前にも述べた如く、自宅或ひは親戚等より通勤する者が多く、従つて食費、住居費として支出する額も比較的少く済んでゐるのである。尙五十圓を超える者は九十九人で僅かに一・九%である。然してその内八十圓を超える者は事務員、女工の各二名、店員外交員、店員監督、タイピスト、電話交換手、接待係の各一名で計僅かに十一名を算するに過ぎない。これ等は大部分が一家を成して家族を抱へてゐるもので一人で費して居る者は殆んどない。

又女工、食堂給仕、或ひは事務員等の中には食費及び住居費を出してゐないものが相等數に上つてゐるが、之は主として家計補助の名義で支出してゐる關係で、決して娯樂費、被服費等のみ支出してゐるのではない。要之、數世紀に互る傳統の絆を斷ち截つて明るく朗らかな生活意識に目覺めた昭和女性の生活レベルはあまりに低きを思はせるものがある。

階級別に観たる食費及び住居費
人員割合



業務別	總數	階級別									
		十圓以下	十圓以上二十圓以下	二十圓以上三十圓以下	三十圓以上四十圓以下	四十圓以上五十圓以下	五十圓以上六十圓以下	六十圓以上七十圓以下	七十圓以上八十圓以下	八十圓以上九十圓以下	超過九十圓
總務員	1,133	1,133									
店員	1,315	1,315									
タイピスト	1,011	1,011									
電話交換手	1,011	1,011									
雑役婦	1,011	1,011									
掃除婦	1,011	1,011									
給仕	1,011	1,011									
食堂給仕	1,011	1,011									
女工	1,011	1,011									
其他	1,011	1,011									
割合(%)	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

業務別に観たる食費及び住居費

第九節 家計補助

家庭より街頭に進出し働き抜くうら若い彼女等の纖弱い細腕によつて家計の一部が支へられてゐることは、涙ぐましくも亦微笑ましい光景である。

總數一萬二千八百九十六人中家計補助をなさない者は僅かに二千六百三十一人、即ち約二割で、残る八割の一萬二千六百六十五人は何れも家計補助をなしてゐる。そして内十五圓超過二十圓以下が二千七百七人(二〇・五三%)で支出者中最も多く、之に次ぐものは十圓超過十五圓以下が二千八十二人(二〇・二八%)、五圓超過十圓以下が二千四十四人(一九・九一%)で結局二十圓以下が六九・三六%を占めてゐる。其の多くは女工(二千二百九人)、事務員(一千六百五十二人)等である。又五十圓超過するものでは、五十圓超過六十圓以下が七十三人(〇・七二%)、六十圓超過七十圓以下が三十五人(〇・三四%)、七十圓超過が三十一人(〇・三〇%)で合計僅かに百三十九人(一・三五%)で主として事務員(五十三人)、タイピスト(二十人)、電話交換手(一六人)等で占められてゐる。

尙家計補助をなさない二千六百三十一人は、主として食費及び住居費として支出してゐる關係である。結局現在の職業婦人の殆んど大部分は収入の幾分かを自己の實質上の食費及び住居費に支出してゐる譯である。

又一人で克く一面食費及び住居費を支出する傍、他面老父母の許に生活費を送つたり、或ひは兄弟の學費を支出してゐる男子跣足の健氣な人々もある。

業務別より觀たる家計補助

業務別	階級											
	總數	五圓以下	五圓以下	十圓以下	十圓以下	二十圓以下	二十五圓以下	三十圓以下	四十圓以下	五十圓以下	五十圓超過	無シ
總數	10,234	8,477	1,058	2,022	2,107	2,107	1,125	825	533	333	233	2,101
事務員	2,258	1,811	487	664	664	332	211	133	83	53	33	257
店員	1,258	1,122	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136
タイピスト	627	485	142	142	142	142	142	142	142	142	142	142
電話交換手	627	485	142	142	142	142	142	142	142	142	142	142
雑役婦	221	177	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44
掃除婦	221	177	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44
給仕	221	177	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44
食堂給仕	221	177	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44
女工	2,258	1,811	487	664	664	332	211	133	83	53	33	257
其ノ他	485	343	142	142	142	142	142	142	142	142	142	142
割合(%)	100.00	82.70	12.70	20.00	20.60	20.90	11.00	8.00	5.10	3.20	2.10	20.70

第十節 交通費

本調査の對象たる會社が主として住宅地に乏しい麹町、京橋、日本橋の諸區に存在してゐる關係上、何らかの交通機關に依り通勤するものが頗る多く、一萬三千二百五人中約八割一分の一萬七百四十九人を算へてゐる。そして利用しない者

が二千四百五十六人で内女工が一千八百七十七人(利用者一千七百六十六人)を占めてゐる。女工に利用者の少いわけは工場所在地が主として本所、深川の兩區であつて、住居を工場附近に持つことゝ、比較的低給者が多い爲め、多少の遠距離をも徒歩で通ふ關係であらう。

然して交通費は三圓超過五圓以下が最も多く、四千九百十四人(四五・七二%)で、之は主として市電利用者及び隣接町村より通勤する省線の利用者によつて占められてゐる。之に次ぐものは一圓超過三圓以下が三千五百二十八人(三二・八二%)で、十圓超過が四十八人(〇・四四%)、内十五圓超過が十二人(〇・一一%)で、中には毎月六十圓位出す者が數人ある。月額十圓以上の交通費を支出するのはタイピストや店員、或ひは外交事務の如き特殊の職業や、更け行く夜に家路へ急ぐ食堂給仕や、華やかな職業戦線を活躍する女優等で、又例外的な家庭事情に依るものもある。

業務別に觀たる交通費

種別	階級									
	總數	一圓以下	三圓以下	五圓以下	七圓以下	十圓以下	十圓以下	十圓超過	無シ	無シ
總數	10,234	6,070	3,356	5,211	1,311	1,311	1,311	1,311	1,311	1,311
事務員	2,258	1,221	1,037	1,037	1,037	1,037	1,037	1,037	1,037	1,037
店員	1,258	1,122	136	136	136	136	136	136	136	136
タイピスト	627	585	42	42	42	42	42	42	42	42
電話交換手	627	585	42	42	42	42	42	42	42	42
掃除婦	221	177	44	44	44	44	44	44	44	44
給仕	221	177	44	44	44	44	44	44	44	44
食堂給仕	221	177	44	44	44	44	44	44	44	44

女工	一七・六	四	八三	五	三	一	一・七
其ノ他	七・六	六	三六	三	五	二	九
割合(%)	100・00	七・六	三・八	五・七	一〇・六	三・六	〇・四

第十一節 修養費

職業戦線に花と咲く彼女等が自己完成の爲めに新聞に、雑誌に、生花に、茶の湯に、通學に、等々の修養費に支出する人々は幾何あるであらうか、又費用は果して充分なものであらうか、總數一萬三千八百六十八人中支出する者は一萬十四人(七割七分)である。そして残りの三千七十二人(二割三分は)支出出来ない者、或ひは支出しない者で、主として女工(一千四百六十五人)、事務員(三百三十五人)、食堂給仕(三百二十七人)等で占められてゐる。

然して修養費を支出してゐる者でも一圓超過三圓以下が一番多く四千二十八人(四〇・二二%)で、之に次ぐものは一圓以下のものも三千六百八十二人(三六・七七%)で、以上の二階級で大部分を占め其の多くは事務員、女工、店員等に見るのである。十圓超過の者は僅かに百十四人(一・一四%)で主として事務員、タイピスト及び店員等に依つて占められてゐる。

又一人平均に就いて見るに、それは二圓四十六錢で給料に對し僅かに七・八〇%を占めてゐるに過ぎない。概してインテリの職業乃至は高級技術を要する仕事を持つものには比較的多く修養費が支出されてゐるが、あまり頭腦を要しない仕事には相反した現象を示してゐる。即ち寫眞技術員の九圓四十錢、車掌監督及び醫師の各々五圓、記者の四圓六十八錢等は多い方で、少い方では女工見習、ゲーム取の各々五十錢、女中の五十五錢、掃除婦及び家政婦の一圓等で、之を平均二圓四十六錢に比すると遙かに低い。

又給料に對し修養費の支出割合に就いて見るに寫眞技術員の三一・三三%、受付係の一五・二二%、ステータダンサーの一四・九七%、事務員見習の一三・七一%、車掌監督の一・六三%、製圖手の一・一七%等は平均の七・八〇%を遙か超えてゐる。少い方では女中の一・八一%、ゲーム取の二・〇四%、掃除婦の二・八九%、家政婦及び女工見習の各々三・〇三%等で、是等は何れも平均の七・八〇%の半分にも及ばない。

以上に依つて察するに、彼女等が重い生活負擔の中から求める精神の糧は婦人雑誌、新聞程度でお稽古、勉強などにまで手を延ばすものは餘程の努力家と云つて良いであらう。又後述の雇主側に於ける修養施設の貧弱さを併せ考へる時、彼女等には餘りに修養すべき機會に接すること少く稍もすれば男性に劣り勝な此の方面に於いて、今後益々懸隔を生ずるであらう。雄々しく男性に叫びかけた三二年の彼女等にもかうした悩みがある。

職業婦人の修養費(業務別修養費階級別)

業務別	總數	階級				無シ	一人平均額實數		同上割合	
		一圓以下	三圓以下	五圓以下	十圓以上		給料	修養費	給料	修養費
總數	10,010	3,622	1,016	1,435	355	30・0	2・8	100・00	7・8	
事務員	1,108	66	1,141	66	66	33・3	3・3	30・0	9・9	
店員	1,650	66	1,710	36	66	26・1	2・0	100・00	7・0	
製圖手	5	6	3	3	2	30・0	0・2	100・00	11・7	
寫眞技術員	5	1	1	2	1	30・0	9・0	100・00	30・0	
タイピスト	201	16	33	22	13	40・8	3・2	100・00	7・9	
電話交換手	66	24	23	15	5	25・5	2・6	100・00	7・9	